

## 国民の医療費負担を軽減するためには… ジェネリック医薬品の普及がカギをにぎっています — 西垣



**西垣 克** (にしがき・まさる)  
静岡県立大学看護学部教授。保健  
学博士。1970年東京大学医学部保  
健学卒業。75年同大学院医学研究  
科博士課程を経て同大学医学部  
助手。92年同大学院国際保健助教授。  
93年韓国高神大学大学院客員教授。  
97年静岡県立大学看護学部教授に  
就任。現在に至る。専門は保健学、  
国際保健学で、国民生活に貢献する  
医療制度の構築をめざし、最近では  
ジェネリック医薬品の役割に関して  
多方面に提言している。

ジェネリック医薬品に関しては単に安いから普及させればよいという発想ではなく、今の医療システムが抱えているさまざまな問題を解決する突破口としての存在意義があると思います。現在の医療システムにおいて医療サービスを利用する際の情報提供をはじめ、その内容がまだまだ不透明です。まず医師の顔がもう一つ見えてこない。患者の評判がいかい医療機器があるとか、有名な病院だとか、そのような理由で判断していますね。医薬品に関しても

同様で、どの薬がどんな効能で薬価がいくらというところを知る機会も充分とは言えません。アメリカでは、薬剤師が医薬品の価格や品質に関する情報を患者に提供するしつかりした医薬品情報システムが確立されています。ジェネリック医薬品を使うことが、医療費削減の切り札となり、自分たちにとつてのいい医療とは何かを、サービス提供側も患者側もインフォームド・コンセント(納得のある同意)されています。今後、わが国でも患者の選択権(インフォームド・チョイス)が制度化され、コスト意識が高まることにより、ジェネリック医薬品が国民の医療費・薬剤費負担の軽減に寄与することは間違いありません。

### 医療制度改革の中で ジェネリック医薬品の役割は

### 自分の健康・いのちにかかわる 医療にもっと関心を

ジェネリック医薬品を40%位の普及率まで高め、国民の医療負担を少なくするためには、ジェネリック医薬品そのものの品質管理や供給体制の安定化はもちろんです。しかしいちはばん大切なことは、みなさん一人ひとりの意識の問題です。例えば環境問題に関心が高まり、ゴミの分別回収とか、汚水を出さないとかが日常当たり前のことになってきていますが、毎日の生活のなかで心掛ける医療も同じです。いや医療は、直接的にのちに関わることで、環境問題以上にのちに関心をもつべきなのです。今日の医療の問題は、治療を受ける患者さんの側にも問題があると考えています。自分の健康には無頓着で、病気になるまで慌てて病院通い。それもすべて医者任せで、医療システムについても無関心すぎます。せめて普段飲んでいる薬の名前くらいは知っておくべきで、自分や家族の薬歴管理や



相性のいい薬品名を医師の前で言えるように心がけておくことです。自己判断できる正しい知識・情報を知ること、まず薬を知ることから医療の理解が始まります。そうすると何が良質な医療サービスなのか明らかになってきます。4月からサラリーマンの医療費負担が2割から3割になります。ジェネリック医薬品の存在や、医療サービスをj受けるノウハウを知ることによって、本来優れたわが国の医療システムをさらに良い方向へ導いていくはずですよ。



少子高齢社会の到来で、国民の医療費負担が大きな問題となつていきます。わが国の外来医療費全体に占める薬剤費の割合は4割を占めるといわれます。医療制度改革で薬価の問題は避けては通れません。医療制度が異なる欧米では、様々な方法で医療費の軽減がなされていますが、なかでも「ジェネリック医薬品」の普及が医療費軽減に大きな効果をあげています。そこで医療制度改革に詳しい静岡県立大学看護学部の西垣克教授に、私たちが聞きなれない「ジェネリック医薬品」について、そのあらましと役割についてお話を伺いました。

### ジェネリック医薬品とは 非ブランド医薬品のこと

医師が処方する医療用医薬品には、大きく分けて2種類あります。一つは製薬メーカーが多額の研究・開発費をかけて製造した新薬で、ブランド医薬品または先発医薬品とも言います。もう一つは、新薬の特許が切れた後に、他のメーカーが自由に製造できる同成分・同効果の医薬品のこと、ブランド医薬品に対して非ブランド医薬品または後発医薬品とよばれ、これがジェネリック医薬品なのです。

で切れますが、私はその有効成分や製法などは人類共通の財産となつてしかるべきと考えています。その点ジェネリック医薬品は長年の使用実績や効果、安全性も十分確認されていますし、研究・開発コストがからない分、ブランド医薬品に比べて安く利用できるなどの理由でジェネリック医薬品の幅広い普及が待たれるのです。欧米の普及率を生産量で見るとアメリカやイギリスの約50%、ドイツの約40%に、わが国では10%強しか普及していません。この理由はなにも、ジェネリック医薬品の存在そのものが、限られた業界や医師だけにしか知られておらず、一般にはほとんど認知されていないことにならなりません。

### 医療費抑制につながる 利用促進に向けた環境づくりが大切

昨年4月から施行された診療報酬の改訂では、薬価に対しても見直しがあり、薬の選択の幅も広がりました。つまり高い薬が使われがちな処方方が改められ、値段の安いジェネリック医薬品の使用を促すよう、医師が成分名(ジェネリック・ネーム)で処方した場合、商品名(ブランド・ネーム)で処方するより高めの処方せん料にするといいのです。また調剤薬局が患者にジェネリック医薬品の情報を提供し、調剤した場合は薬剤情報提供料がプラスされます。国民が安心して使用できる良質の医薬品を供給できる制度の確立や、医療機関が経営的な不安を生じることなく適正な医療サービスを提供できることは、当然のことです。そのために良質のジェネリック医

薬品の普及は不可欠ですね。医師が薬価差益によりかかることなく、信頼できる品質のジェネリック医薬品を使用することで、負担の大きい医療費を少しでも軽減できれば、国民は納得し、医療全体の信頼感の回復にもつながるはずですよ。厚生労働省ではジェネリック医薬品の約6割を「ブランド医薬品と同等の品質」と認定し、それらの価格をインターネット上でも開示しています。医療サービス提供者はモラルとして、不必要な高い薬は代替することや、ジェネリック医薬品の情報をより多くの人々に知らせる義務があるでしょう。



Generic name

朝日新聞社に無断で転載することを禁止する

## ひとに、未来に、医療に。確かな品質で応えたい。

新薬の特許期間が満了した後、発売される後発医薬品のことを「ジェネリック医薬品」と言います。先発品と同じ成分、同じ効果で、価格は約半分。その理由は新薬に比べて膨大な開発コストが少なくすむからです。WHO(世界保健機関)もジェネリック薬品の使用を推奨するなど、世界でますます活用されています。大原薬品工業は高品質なジェネリック薬品の開発を通して、患者さんの経済的負担を軽減し、超高齢化社会へ向けて医療費軽減の一翼を担いながら地域社会へ貢献していきたいと考えます。

未来のために、わたしたちができること。  
**OHARA**



**大原薬品工業株式会社**

本社  
〒520-3433 滋賀県甲賀郡甲賀町大原市場43-1  
TEL0748-88-2200 FAX0748-88-2300

東京支店  
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-8-6  
日本橋ビル5F  
TEL03-5614-6577 FAX03-5614-6588

お問い合わせは  
大原薬品工業株式会社 医薬情報室  
☎ 0120-419363

